この建物は、1本の木から建てられたと言われている。 その大きなヒノキの木は、20世紀の変わり目に、北上川の底から発見された。「沈んだ木」（埋れ木）は、自然で豊かな木目の色から珍重される。仙台のある資産家がその木を買い取り、それを使って1908年に建物を建てた。 1943年に瑞巌寺に寄贈された後、建物は解体され、現在の場所に移築された。